



嶺南教育実践フォーラムを終えて 【研究員号】

各セッションでは、さまざまな校種や地域の先生方と「こんな子どもの姿を大切にしよう」「明日からやってみよう」など、研究をもとに語り合うことができました。参加されたみなさんの感想を紹介し、研究員の気づきについてお知らせします。

澤田（小学校算数科）

数学的な見方・考え方を働かせる算数の授業づくり

- 「算数の目」を使うことが目的とならないようにしたい。まずは、教材研究で自分自身が意識したいです。
- 教師の解釈で言い換えるのではなく、子どものつぶやきをつなぎ、子どもの中にある考え方を引き出せるような教師の働きかけを大切にしたいです。

教材研究の大切さを改めて感じました。さらに、子どものつぶやきに耳を傾けることや子どもの思いを引き出すこと、大切な考え方を子どもが理解できる形で共有していくこと等、これからの授業で大切にしたい教師の支えが見えてきました。

柿本（中学校国語科）

批判的思考を働かせる国語の授業づくり

～根拠を明確にした考えを持つために～

- 読み・検討の「観点」と「対象」を意識することで、自分の考えが何を根拠に形成されているのかを自覚できる仕組みが確立されていて、参考にさせていただきたいと思いました。
- 根拠を明確にした考えを持つために、どこに焦点をあてるかを明確に示してあげることにより、生徒もイメージしやすく考えやすいものなることがよく分かりました。ぜひ授業に取り入れていきたいです。

先生方の普通の授業の様子も教えていただき、生徒が自ら文章に向き合い、根拠をもとに考えを持つことの大切さを改めて感じました。

谷江（小学校国語科）

批判的思考を働かせる国語の授業づくり

～学びの自覚に着目して～

- 読み・検討の「観点」と「対象」を教員が明確に持てるようになりたいですし、児童生徒と共有できるようにもなりたいです。児童生徒自身が自分でこう読みたいと思えるような授業を作っていきたいです。
- 小さなアウトプットを普段から積み重ねることで、学習内容が自分事になると同時に、自分の言葉で話せる段階まで学習の理解が深まることがわかりました。

「教材を使って何を学ぶことができるのか、どんな力を付けることができるのか」を意識して研究をしてきました。対話に目的があること、教材で学んだことが使えるようになること等、自ら学びに向かうために大切なことが見えてきました。

坊（中学校社会科）

資料から多面的・多角的に考察する社会科の授業づくり

- 生徒が資料から読み取ったことをもとに、比較・関連付けたりするなどの考える力を伸ばしていけるよう意識していきたいです。
- 資料は社会科の肝であり、生徒の実態を把握するとともに、小学校で学習したこととの系統性（どんな資料を見てきたのか、読み取る技能が身についているか）を踏まえた授業づくりをしていきたいです。

めざす生徒の姿を明確に持った授業づくりをしていくことが大切だと思いました。資料からどんな気づきや疑問が生まれ、どのように考えていくのかなど、生徒の思考に寄り添い、学びを支える教師でありたいです。

大橋（中学校英語科）

対話を取り入れたライティングの授業づくり

- 4コマ漫画のストーリーを考えさせるなど、機会があれば挑戦してみたいと思いました。生徒が表現するための知識をいかにつけさせるかが現在の課題です。
- 「英語を学ぶ」というより「英語を使う」にはどうしたらよいか、という視点で話を聞くことができました。目の前の子どもに合わせた手立てや発問・課題などを考えていきたいです。

英語で書くためには、生徒が課題を自分事できるように支援し、学習意欲を高めておくことが重要だとあらためて感じました。日頃から全体で言語を吟味する経験や、知識を活用する経験を積むなど、英語でアウトプットする（書く）ために必要なことが見えてきました。

多くの学校、先生方にお世話になりました。フォーラムでのご意見や自分の気づきを今後につなげていきたいと思えます。

個人研究まとめは、次回の研究員号で詳しくお伝えします。

ありがとう
ございました

